

たびかさ 度重なる偶然

みなさんは度重なる偶然を経験したことがありますか。ここでは、私が経験した不思議な度重なる偶然についてお話しします。

まずは、私が子供の頃の話です。母には妹が二人います。二人ともまだ若かったので、私たち家族は母の妹二人を、Sちゃん、Mちゃんと呼んでいました。二人ともちょっと遠くに住んでいましたが、ときどきうちに遊びに来てくれました。

子供がいる家では、カレーが人気のあるメニューだと思います。私が子供の頃、母もときどきカレーを作ってくれました。すると、不思議なことに、カレーを作った日は必ずSちゃんが遊びに来るのです。誰も連絡はしていないし、Sちゃんからの連絡もありません。まるでカレーの匂いが遠くに住んでいるSちゃんのところまで届いたようでした。それが何年も続いたある日、Sちゃんが言いました。

「このうちはいつもカレーなんだけど、カレーしか食べないの？」

そう言われくらいSちゃんに来る日はいつもカレーだったのです。もちろん、私の家族はカレーばかり食べていたわけではありません。

そして、母が天ぷらをつくる日は、Mちゃんがやはり連絡なしで突然来るので

した。

「このうちはいつ来ても天ぷらだね。でも、天ぷらは作るのが大変だからありがたいけど」

M ちゃんはそう言って天ぷらをお腹いっぱい食べて帰るのです。

母がカレーを作ると S ちゃん、天ぷらを作ると M ちゃんが来るという偶然が何年も続きました。家族で「今日はカレーだから S ちゃん来るかもね」と言っていると、本当に S ちゃんが現れるのです。



次の偶然は 5 年ぐらい続いた話です。私が麻酔を使った歯の治療をすると、必ず会う人がいました。知り合いの Y さんです。ふだん偶然会うことは全くないのですが、麻酔を使った歯の治療をした日はなぜか必ず、Y さんに会うのです。会う場所も公園、スーパー、お店などいろいろでした。5 年間で 6 回ぐらい会いました。もちろん会った時には少し話をします。その時はいつも麻酔がきいているので、笑うと顔が歪みます。私はそのうち「Y さんは私の顔をそういう顔だと思っているんじゃないかしら？」と心配になってしまいました。でも、8 年ぐらい前から、Y さんには会わなくなりました。そういえば、この 8 年ぐらい私は麻酔を使った歯の治療をしていません。だからでしょうか？

今度は最近の話です。両親と住んでいる家の隣には、4 階建ての駐輪場があります。そのオーナーはちょっと遠くに住んでいるため、年に数回しか様子を見に来ません。駐輪場には小さな植え込みがあって、オーナーに代わって、私たちがその草花の世話をしています。オーナーもとても喜んでくれています。水をやり、伸びたつるや枝を切りそろえたりする簡単な作業です。でも、春や夏は草木がぐんぐん成長するので、ちょっと世話をしないでいると、つるがからまってジャングルのようになってしまいます。でも、私たちが長い間、家を留守にして、草木を切ることができない時があります。そしてそのオーナーが様子を見に来る時は、いつも植え込みがジャングルのようにになっている時なのです。今年も長い旅行から戻ってくると、やはり、植え込みはジャングルのようになっていました。旅行から帰ってきた夜に、「こんな時に限ってオーナーさんが来るんだよね」と家族と冗談を言っていたら、本当にオーナーが来たのです。旅行から戻って 2 日目のことでした。

最後は、起こってほしくない偶然です。それは叔母といると、よく大きな地震があることです。2011 年 3 月 11 日、叔母が東京にある私の家に来ていました。その時にマグニチュード 9.0 の東日本大震災が起こったのです。地球が割れると思ったぐらい大きくて長い揺れでした。それが最初の偶然だったのかもしれない。

しばらくして、叔母は東京の家から伊豆に引っ越しました。海と山に囲まれた

丘の上にある家です。それから度重なる偶然が続きました。私が叔母の家に遊びに行くたびに、日本や世界で大きな地震が起こったのです。

ある夏、叔母と海で泳いでいる時に、九州でマグニチュード 7.1 の地震が発生しました。そんなことはまったく知らず、夕食前の泳ぎを楽し

んでいました。家に戻ってテレビを見ると、太平洋側では津波警報が出されてきました。泳いでいるときに津波がきていたらと思ったら、背筋が凍る思いでした。そしてその次の日の夜、ズドン！という大きな揺れを感じました。家が丘から数センチ滑り落ちたかと思いました。

次の夏もまた、叔母のところへ遊びに行きました。私は朝早く一人で海へ散歩に出かけました。海は坂を 1 キロほど下ったところにあります。その日は叔母が海沿いの道まで私を迎えにきてくれる予定でした。待ち合わせの時間は 8 時 25 分でした。初め私は散歩だけするつもりでした。でも、とてもいい天気で気持ちよかったので、服を着たまま泳ぎ始めました。でも、濡れた服で車に乗るのは悪いと思ったので、早めに、8 時すぎに海から上がり、海辺で陽に当たって服を乾かしていました。8 時 20 分すぎに叔母の車に乗り、丘の上の家まで戻りました。車をガレージにとめ、そこから階段を 15 段ぐらい上がって家に入ります。階段を登っている時、丘のサイレンが鳴り響きました。何だろうと気になっていると、すぐにアナウンスが流れました。



「津波警報です。すぐに高台に避難してください」

急いでニュースを見ると、8時24分にロシアのカムチャツカ半島でマグニチュード 8.7 の地震があって、北海道と本州太平洋側に津波警報がでたということでした。この時も背筋がゾッとしました。

でも、この嫌な偶然はこれで終わりのようです。今年も叔母の家に行ったのですが、滞在中に大きな地震はありませんでした。実は叔母の家に行くたびに「今回は地震があるかな？」とちょっとドキドキしていたのです。こんなうれしくない偶然はもう起こらないでほしいです。

みなさんは、このような不思議な度重なる偶然を経験したことがありますか。

(2433 字)

(2026.10 Written by Mami TANAKA)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<https://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.